

【別紙】症例報告の詳細

(1) 若年性認知症者向けデイサービスに通う4名の改善症例

中鎖脂肪酸を摂取した若年性アルツハイマー型認知症患者の症例
～第2報：TDASと日常観察から見た認知機能、周辺症状の変化～

[共同研究者]

- ・特定非営利活動法人ぐるーぷ麦 (吉田歌子代表)
- ・かとうクリニック (加藤一彦医師、末松ひろみ)

[目的・背景]

- ・昨年の本大会では、若年性アルツハイマー型認知症者が中鎖脂肪酸を摂取した際での日常観察から見た変化を報告したが、今回は被験者本人が実施するタッチパネル式認知機能テスト(TDAS)を加えることで、改めて客観的、定量的に変化を評価した。

[対象者]

- ・アルツハイマー型認知症3名、レビー小体型認知症1名。

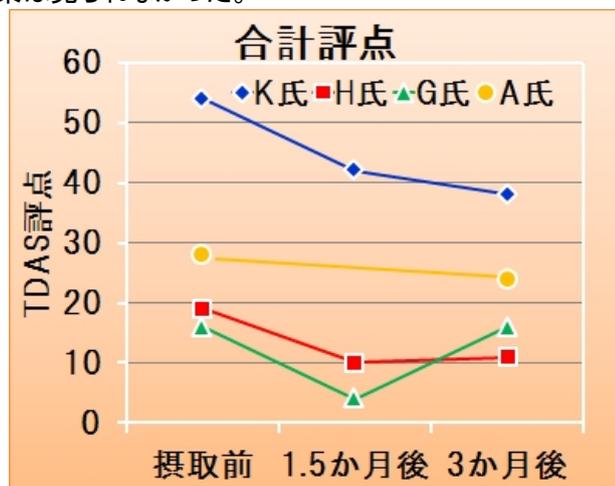
[摂取量と期間]

- ・1日あたり18g(1個あたり6gの中鎖脂肪酸を含む加工食品を1日に3個)を3ヵ月間摂取。

[症状の改善]

1) TDASの結果

- ・4名とも総合評点に改善の傾向がみられる結果となった。
- ・単語再認(単語を覚えているかどうかの確認)への改善傾向が見られた。
- ・ほかの症状では、一様な結果は見られなかった。



※TDASは、評点が低いほど評価が高い結果となる

※G氏：3ヵ月目は、体調不良の状態での評価を実施

※A氏：1.5ヵ月目は、通所欠席で検査不能

2) 日常の様子の変化

- ・自律神経症状だった震えが止まり、自発的発言が増え、表情が明るくなった。
- ・同窓会でホテルに宿泊の際、宴会場から自室まで自力で戻るなど、見当識障害に改善が見られた。
- ・中鎖脂肪酸摂取後に嫉妬妄想が徐々に落ち着き、3ヵ月後に症状がみられなくなった。
- ・睡眠が少なくなり、自宅では何年かぶりにダジャレを言った。

[まとめ]

- ・客観的、定量的な評価でも、中鎖脂肪酸の摂取による認知機能などへの改善の可能性が示唆された。

(2)週3回デイサービスに通う3名の改善症例

通所介護施設を利用する認知症高齢者への中鎖脂肪酸によるアプローチ
～改訂長谷川式簡易評価スケール、日常観察からみた改善症例～

[共同研究者]

- ・金谷栄養研究所 (金谷節子代表、小野准)
- ・株式会社ツクイ浜松大平台 (平野友季子)

[目的・背景]

- ・中鎖脂肪酸の長期摂取による認知機能改善効果が報告されている中、毎日の摂取ではない通所介護施設利用者での報告は少ないことから検討をした。
- ・評価には、改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)を用い、客観的な評価を行った。また、うち1名に対しては日常観察を行った。

[対象者]

- ・週3日通所介護施設を利用する認知症高齢者3名。

[摂取量]

- ・1日あたり20gを昼食に混ぜて提供し、3ヵ月間摂取。

[症状の改善]

1)改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)の結果

- ・場所見当識、計算、物品記銘、言葉の流暢性に対して、摂取期間に応じた改善傾向が見られた。
- ・年齢、時間見当識、数字逆唱、言葉の遅延再生では、変化は見られなかった。



2)日常の様子の変化

- ・精神的な落ち着き、表情の豊かさ、会話の整合性、時間見当識に改善が見られ、少年時代を回顧するなどの変化が見られた。

[まとめ]

- ・昼食時のみの中鎖脂肪酸の摂取でも、精神面と認知機能で改善されることが示唆された。

(3) 特別養護老人ホームへ入居する認知症者の改善症例

特養施設に入居する認知症高齢者への中鎖脂肪酸摂取によるアプローチ ～NMスケールによる認知機能、及び低栄養改善作用の検討～

[共同研究者]

- ・株式会社天柳 (菅野恵美子、山田洋子、月井拓、兎澤真、島裕之)
- ・特別養護老人ホーム ライフホーム城山(小島千恵美、木村よし恵)
- ・特別養護老人ホーム 菅野の里 (林未佳)

[目的・背景]

- ・中鎖脂肪酸を日常的食事で摂取したときの認知機能や低栄養などへの影響について、客観的な評価が少ないことから実施した。
- ・認知機能への評価には、N式老年者用精神状態評価尺度(NMスケール)を用いて評価、および日常観察を行った。また栄養状態の評価には、血清アルブミン(Alb)の濃度や体重などを測定して評価した。

[対象者]

- 1) NMスケールを用いた評価 … 特別養護老人ホームの入居者 3 名(中等度 2 名、重度 1 名)。
- 2) 栄養状態への評価 … 特別養護老人ホームの入居者 5 名。
- 3) 日常観察による評価 … 特別養護老人ホームの入居者 13 名

[摂取量]

- 1) NMスケールを用いた評価 … 1日あたり20g、4～5週間摂取。
- 2) 栄養状態への評価 … 2回に分けて、1日あたり4gを3カ月間摂取。
- 3) 日常観察による評価 … 1日あたり20g、3カ月間摂取

[症状の改善]

- 1) N式老年者用精神状態評価尺度(NMスケール)での評価結果
 - ・3名とも改善が見られ、そのうち2名において物事への関心や会話、記憶、見当識などでの改善が見られた。また、うち1名は自身の名前が書けるようになった。
 - ・比較的重度の1名においては、目立った変化は見られなかった。



2) 血清アルブミン(Alb)濃度、および体重測定の結果

- ・血中のAlb濃度の平均が 3.1 から 3.4g/dl に増加し、体重は 3 名に増加がみられ、栄養状態の改善が見られた。

3) 日常観察による評価

- ・13名中4名に変化が見られた。内容としては、発語が明らかに増える、自身の名前を説明できる、夜間の失禁の減少、正確な年齢が応えられる、などの改善が見られた。

[まとめ]

- ・客観的、定量的なデータによって、普段の食事や間食などと共に中鎖脂肪酸を摂取することで、低栄養や一部の認知機能が改善されることが示唆された。

(4) 若年性認知症患者向けデイサービスに通う50代女性の表情変化の測定

中鎖脂肪酸によるアルツハイマー型認知症の周辺症状改善効果の報告

～表情を数値化して客観的に評価する～

[共同研究者]

- ・でいサロン麦 (吉田歌子代表、井出裕子)
- ・医療法人彦仁会かとうクリニック (加藤一彦医学博士、末満ひろみ)

[目的・背景]

- ・中鎖脂肪酸の摂取により、認知症の周辺症状が改善することが知られている中、周辺症状改善からのクオリティー オブ ライフ(QOL)の改善効果についての評価が少ないことから実施した。

[対象者]

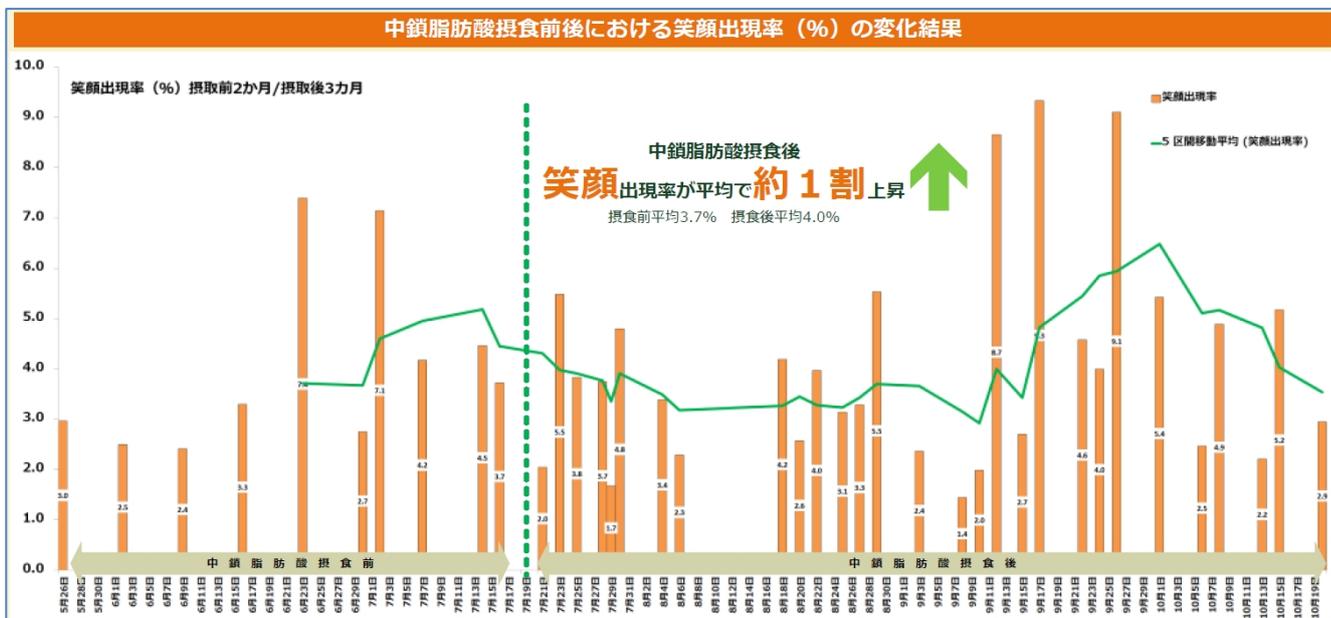
- ・若年性アルツハイマー型認知症の50代女性(要介護度2)、1名。

[摂取量]

- ・1日あたり約20g、3カ月間摂取。

[症状の改善]

- ・画像解析技術を利用した表情分析方法を用いて笑顔の頻度を数値化するという当社独自の分析方法で、表情の変化を分析したところ、中鎖脂肪酸を摂取する前に比べて、摂取後は笑顔の出現率が平均で約1割上昇する結果となった。
- ・中鎖脂肪酸摂取後は、笑顔が多い日と少ない日の差がはっきり出るようになり、これは感情表現の幅が大きくなった可能性が考えられた。
- ・家族や施設スタッフにより、周囲への関心の回復や、睡眠障害の改善が観察された。



[まとめ]

- ・当社独自の分析方法である画像解析技術を利用した表情分析方法により、中鎖脂肪酸摂取は認知症者の笑顔を増やし、QOLの改善に繋がると示唆される結果を、定量的に評価することが出来た。

(5) 薬局からの中鎖脂肪酸油の提供による改善症例

中鎖脂肪酸摂取による在宅高齢者への認知障害・認知症に対するアプローチ ～調剤薬局来局者への対応を通じての改善症例～

[共同研究者]

- ・株式会社ツルハ（鈴木正和、阿部真也、野村和彦、吉町昌子、後藤輝明）

[目的・背景]

- ・服薬中の方の中鎖脂肪酸の摂取は、栄養状態の改善の領域では使用実績があり、重大な副作用の報告もない。しかし服薬中の認知症者における中鎖脂肪酸の認知機能への影響についての評価は少ないことから検討を行った。

[対象者]

- ・薬局へ物忘れが激しいと訴えた本人や、家族から薬局へ周辺症状が激しいと相談があった方、11名のうち5名。
※11名に対して中鎖脂肪酸油を提供したが、6名は未摂取・観察中・不明であり、症例観察ができなかった

[摂取量]

- ・1日あたり約20gを限度に使用を推奨。
※家庭内での使用のため、正確な使用量は把握できず。

[症状の改善]

- ・アルツハイマー型認知症者で、中鎖脂肪酸の摂取により、家族が驚くほどの改善を認めた。途中、摂取を中断したところ症状が悪化した。再摂取により改善が現れた。また、抗認知症薬、降圧剤、脂質以上治療薬との相互作用はなかった。
- ・血管性認知症者で、中鎖脂肪酸の摂取により記憶力向上を実感した。また、抗悪性腫瘍剤、降圧剤、何消化性潰瘍治療薬、抗血栓薬との相互作用を認めなかった。
- ・中鎖脂肪酸の摂取により、物忘れを訴える健常者において、改善の自覚があった。
- ・ご家族より、アルツハイマー型認知症者が中鎖脂肪酸の摂取後、症状に改善したとの報告があった。

[まとめ]

- ・調剤薬局で、中鎖脂肪酸油の摂取の推奨と状況の聞き取りを行うことで、服用している薬剤情報と合わせた、医療だけではカバーできない情報提供が出来る可能性が示唆された。
- ・中鎖脂肪酸は食品であることから、摂取にあたり重篤な副作用が起こる可能性が低い中、服薬中の認知症者が使用した場合でも、認知機能や周辺症状への改善効果が得られる可能性が示唆された。